

# 令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年(2025年)3月6日  
札幌市立あいの里東中学校  
校長 寺田 実

## 1 本年度の重点目標

- (1) 「学ぶ力」を培う
- (2) 「豊かな心」「健全な人間関係」を培う
- (3) 「健やかな体」を培う
- (4) 「信頼される学校」の創造
- (5) あいの里東中らしい教育活動の推進と開発

## 2 本年度の運営方針

- (1) 教職員の協働体制を基盤とする学校運営(チームあい中)
- (2) 一人一人の生徒を大切にされた教育活動の推進
- (3) 家庭・地域・関係機関との連携による学校教育の充実
- (4) 本校学校文化を継承するとともに、特色ある学校づくりへの意欲的な研究開発

## 3 自己評価結果に対する学校関係者評価 (A十分達成できた、Bおおむね達成できた、C少し不十分だった、D不十分だった)

分野	評価項目		自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	1	重点目標の内容は学校や生徒の実態から見て適切である。	B	目標としては適切であるが、「信頼される学校」となるために、改めて基本に立ち返る必要がある。また、あいの里東中らしい教育活動とは何かについても引き続き検討していきたい。	A	A
	2	調和のとれた教育課程を編成している。	A	教科の標準授業時間の確保を行いながら、適切に生徒の活動時間の確保に努める。総合的な学習の時間では3年間を見据えた柱を明確にし、系統立てた指導に努める。	A	A
	3	自己存在感や社会性を育んでいる。	B	学校は自分のよさを認めてくれていると感じている生徒は65%であり、高いとはいえない。生徒一人一人との対話を大切に、生徒と教職員、ひいては地域とともに学校づくりをしていくことで、生徒の社会性を育んでいく。	A	A
	4	重点目標への教職員の共通理解や機能化が図られ、協働して活動している。	B	年度始めにおいて、目標の共通理解を一層深めておく必要がある。チームとして、どんなときも立ち返ることができる目標を設定したい。	A	A
学校関係者評価委員によるご意見		子どもたちへ押しつけすぎも良くない。新しい“あい中らしさ”を築き直して欲しい。				
学習指導	5	基礎・基本の定着と活用を図る指導に努めている。	B	基礎・基本の定着のために、繰り返し学習や一人一人の個別の対応など、日々の授業を充実させる。家庭の協力を得ながら、家庭学習の推進にも努める。	A	A

6	一人ひとりの意欲につながる適正な評価に努めている。	A	個々の生徒への働きかけや助言の機会を増やし、適切な励ましを継続していく。評価方法について研鑽を積み、指導と評価の一体化を実現するよう努める。	A	A
7	各教科において、ICTの活用と言語活動を高める工夫に取り組んでいる。	A	各教科の授業をはじめ、学活や総合など多くの場面でICT(chromebook)を活用することで理解を深めるとともに、グループ交流や発表の場面を設け、より深い理解へと導く。	A	A
8	命の尊さや思いやりなど豊かな心を育む教育活動を行っている。	B	道徳科の授業を要として、今後も教育活動の全体を通して命の尊厳・思いやりの心など豊かな心の育成に努める。併せて、外部講師の活用(保健講話・情報モラルの授業等)や体験活動の一層の充実を目指していく。	A	A

学校関係者評価委員によるご意見 特に命の尊さ等については、知らない人が傷つけられても身内のことのように悲しんだり考えたりすることができる感性が重要である。学校と家庭が連携して、子どもの感性を豊かなものにしてほしい。

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ	
生活指導	9	生徒指導において情報交換が行われ、一致した指導体制で臨んでいる。	B	生徒指導部が中心となり、当該学年だけでなく職員全体で情報を共有し、教職員が一体となって生徒指導に努めたい。また生徒の悩みが多様化している実態に合わせ、研修会等の充実を図る。	A	A
	10	いじめや不登校、不適応生徒に対して組織的に適切な対応をしている。	B	不登校や不適応生徒に対しては学びの支援委員会を中心に、スクールカウンセラーや関係機関との連携を強化し、全職員で協力して支援に当たる。いじめ対応については、引き続き教育相談やアンケートを実施したり、校内いじめ防止対策委員会を定期的に開催したりしながら、いじめの未然防止、早期発見、組織的な対応に努める。	A	A
	11	基本的な生活習慣や態度の育成に努めている。	A	規則正しい生活を送ることの大切さを指導し、見通しをもちながら行動できるように支援していく。さらに、メディア(スマートフォンやゲーム)使用に関するモラルや健康被害などの課題点に注目させ、学校と家庭が連携しながら、生徒に基本的な生活習慣を身につけさせたい。	A	A
	12	ふれあいを大切にし、一人一人への生徒理解に努めている。	A	生徒との対話を大切にして、相互の信頼関係を深めていく。また、家庭と学校が両輪となって、生徒理解を深めていく。	A	A

学校関係者評価委員によるご意見 学校は、その実態に合わせて声かけをしたり指導をしたりしていくしかない。「自分だけが楽しい」ではいけないのだと伝え続けてほしい。コロナ後のコミュニケーションのあり方について見直す時期である。

教育環境	13	P T A 活動の充実や地域・近隣学校との連携を図り、本校の教育活動への理解と協力を得られるよう努めている。	B	札幌らしいコミュニティ・スクールの本格実施に向けて、地域の方やパートナー校3校の担当者を含めて話し合いを重ねる。本校の教育方針や目指す生徒像を共有し、地域が一体となった取組を進められるように準備をしていく。	A	A
	14	安全・安心な環境づくりと指導に努めている。	A	清掃活動の充実や学習環境の整備をさらに進めていく。また、安心できる空間づくりへの工夫については引き続き検討していく。	A	A
	15	朝の読書などを通して、読書活動の推進を図っている。	B	朝学活前を落ち着いた雰囲気ですごすことができるように、朝読書の取組を継続する。学校図書館の活用もすすめ、生徒の読書活動の充実を一層図っていく。	A	A
学校関係者評価委員によるご意見		コミュニティ・スクールの取組が、前向きで有意義なものになることを期待している。また、学校が安心できる空間となるように、引き続き尽力してほしい。				